

太鼓を見る眼差し

校長 山田 浩之

三月一日のお昼休みに万代太鼓部の発表会が、体育館で行われました。万代太鼓部一年間の締めくくりです。その演奏を聞きに多くの子どもが集まりました。四年生は、「躍進」を演奏しました。大勢の前で演奏するのが初めてで、緊張感が漂ってきます。それでも一年間の練習の成果を発揮し、元気な演奏を聞かせてくれました。五年生は、「おけさ」を演奏しました。最初、人数が少なかつたのですが、途中から六年生が助っ人が入ってきて、息の合った演奏を披露しました。最後は、六年生の「砂山」と「湊」です。「砂山」は、哀調を帯びた節の横笛に力強い太鼓がかぶさってきます。「湊」は、チャンチキ（カネ）も加わり、大きな掛け声も入って、華やかで力のこもった演奏です。たくさんある太鼓の音が揃い、一つの太鼓のように聞こえ、最後の打撃の後の静寂に余韻が残りました。

発表会の後に、万代太鼓部の部長さんから、曲について少し教えてもらいました。「砂山」は、「新潟小学校でしか演奏されてこなかった」、「湊」は「海へと船が出港するような感じで演奏している」とのことです。

発表会でもう一つ、私の目を引いた

ことがあります。それは、聴衆の眼差しです。どの子どもも、太鼓の演奏を楽しんだり、演奏している友達を応援したりしています。しかし、それだけではありません。特に下の学年の子どもたちには、真剣に演奏している上級生への憧れの眼差しがあつたように感じました。

憧れは、文化継承の大きな動機になります。そして、子ども時代に憧れた文化、特に、郷土の音楽は、心の中の郷土愛の形成に関わっていると思うことがあります。子ども時代に聞いた祭囃子の節回し、音色や楽器の響き、そして情景は、いつも懐かしく故郷を思い起こさせ、心を生まれ育つた場所に連れ戻してくれれます。地域を愛する心を育てるには、その地域にしかない価値ある文化を子どもに経験させたり、触れさせたりすることが有効だと考えています。新潟小学校の地域には、それがありません。

この素晴らしい、万代太鼓の活動をより充実させ、持続させていくために、新しい活動の在り方について令和六年度に検討を進めて参ります。万代太鼓部の保護者の皆様とも相談をさせていただきます。